

第 10 章 鉱 害

1 鉱 害

本市の石炭産業は、江戸時代末期、片寄平蔵らによって採掘が開始されて以来、最盛期の昭和26年には、83炭鉱、2万3千人の鉱員を擁し、年産300万トン前後の採炭量を誇っていましたが、石油エネルギーの普及により衰退の一途をたどり、昭和51年9月、常磐炭礦(株)西部鑛業所の閉山により終わりを告げました。

本市では、このように広く石炭の採掘が行われたため、浅い坑道の崩落によって陥没する、いわゆる浅所陥没の鉱害が毎年発生しており、国県等の関係機関と連携して復旧工事を実施しています。



2 施工状況

本市による浅所陥没復旧工事の年度別実施状況及び令和5年度の浅所陥没復旧工事の施工状況は、表10-2-1～2のとおりです。

表 10-2-1 本市による浅所陥没復旧工事の年度別実施状況

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R元 (H31)	R2	R3	R4	R5
箇所数	7	4	4	5	4	3	7	4	4	4
工事業費 (千円)	5,564	2,185	3,046	1,692	6,076	3,115	4,263	6,602	2,174	2,776

表 10-2-2 令和5年度浅所陥没復旧工事

(単位:千円)

No.	所在地	被害箇所	主な内容	事業費
1	勿来町白米鳴神及び勿来町白米後光前地内(4箇所)	農道、畑、水路	土工	489
2	遠野町滝字山崎地内(1箇所)	田	土工	1,155
3	田人町旅人字上平石地内(1箇所)	田	土工	783
4	勿来町白米鳴神地内(1箇所)	田	土工	349